

①

「みんなの命」

脚本・画
三輪 みわ
輝 ひかる

「おはようー。今日の朝ご飯はなにかな。」

お母の上には、ちよひよふく焼けてる田んぼ焼きや、

プリンプリンのおうこそひなソーセージがのってらます。

②

だけどもさおくんは「いただきます」をしていません。

姿勢も悪いです。

テレビはつけっぱなしでゲラゲラ笑っています。

お母さんの、

「テレビを消しなさい。」

どうも注意の声も聞こえませんでした。

③

テレビを見ながらソーセージを食べようと思いました。

ちんぷんソーセージが勢いよくお皿から

プヨーンととんで、床に落ちてしまいました。

④

ソーセージを捨おうとしたら、なんとソーセージに

ぶたの顔がありました。

まよおくんはびっしょり、

「なんじゃこりゃー」

と叫びました。

ぶたソーセージが、

「いただきますをして、テレビを消してから食スてねわめっ」

と言いました。

まよおくんは、

「やーだぬ。」

と言って知らん顔していました。

⑤

すると、ぶたソーセージが、

「ブヒブヒブー」

と呪文を唱えました。

その瞬間、突然テーブルの下に大きな穴ができて、

まねおくんが落ちていきました。

「うわ——」。

⑥

落ちたところは、大きなぶたがいっぱいいるよに思いました。

まさおくんより大きいぶたもいます。

ぶたソーセージが、

「ここは養豚場ようとんじょうとらって、

ぼくはここですごく大きくなって、出荷されたんだよ。」

と語り…

⑦

「おあ次のとじふに行へよ。ほくにまたがって。」

「ええ。ソーセージにまたがるのー。」

まわおくんがおねるおねるまたがってみろじ

ぶたソーセージが

「フヒフヒフー」

と書いてました。

するとぶたソーセージが宙に浮いて、

ぶたとは思えないスピードでよびました。

「うわー。だれか助けてー。」

⑧

ついたところ、ソーセージがいっぱい作られている

工場でした。

ぶたソーセージが、

「じいば、ソーセージ工場とって、

ぼくはじいばでソーセージになったんだよ。」

と言いました。

まさおくんは、ソーセージを見たら、

みだねが吐きました。

「おっこねー。」

どうどう歩くつらむじ、つしも朝に飯で見覚えのあめ、

フロックロリーおばさんや、ミニトマトちゃんや、

豊玉へんに会いました。

みんなが、

「いんじちはー。」

と言ったのでまねおへんもちゅっぴっぴっぴっぴながら

手を振りました。

あるとびだソーセージが、

「人間は、いろいろな命をもらって生まれているんだよ。」

「あっそうか。知らなかったー。」

と言っつてあぐびをしたら、もとの家に戻っていました。

まさおくんは、

「じのお母には、トマトの命、たまごの命、フタの命、

いろんな命があるんだな。」

と思いました。

次の日からまさおくんは、ちゃんと「いただきます」をして、

テレビを消してから食べるようになった。

めでたしめでたし